

愛媛大学医学部 同窓会会報

2013 NOVEMBER No.29

発行日/平成25年11月1日

編集発行人/高田 清式

発行/愛媛大学医学部同窓会
〒791-0295

愛媛県東温市志津川

TEL(089)960-5231

印刷/原印刷株式会社

TEL(089)974-8711



表紙写真紹介

コミュニティハウス (旧福利会館改修)

平成24年10月1日 リニューアル
2階は文化系サークルの部屋多数

CONTENTS

会長挨拶	2
愛媛大学医学部同窓会会則	4
愛媛大学医学部同窓会会則施行細則	5
愛媛大学医学部同窓会 申し合わせ事項	5
第29回通常総会報告	6
卒業生からのメッセージ	7
新任教授からのメッセージ	7
医学祭を終えて	9
スタンフォード医療研修に参加して	9
同窓会報告	12
支部紹介	14
医学部医学科人事異動	15
お知らせ	16

会長挨拶



高田 清式 (昭和56年卒・3期生)

東日本大震災から2年たちましたが、同窓の皆様も多くの影響を受けいまだ少なからずの影響をお感じの方も多いことと存じます。全国的な類まれなる酷暑がようやく過ぎつつありますが、この最近、欧米の経済危機をはじめ国内企業の不況、TPP問題、ならびに隣国との領土主権問題など多くの話題・事件もあり、さらに医療の分野でも震災関連の健康被害や地方の慢性的な医師不足、TPPの医療での将来的影響など、やはり問題が山積され話題は毎年尽きません。

さて昭和48年に創設されたわが愛媛大学医学部は40周年を今年迎え、この3月に第35期生が学窓を巣立ち(医師国家試験の今年の合格率は89.5%で43国立大学では34位で例年より不振、次回捲土重来を期待)、国内外のそれぞれの医療現場で会員の皆様が毎年積極的な活躍を行っておられます。益々のご活躍を期待しております。今年9月28日に40周年記念式典・祝賀会がひめぎんホール(旧称県民文化会館)で盛大に行われ、多くの同窓生、県内外の病院・行政関係者にお集まりいただきました(記念誌や記念DVDも発行)。また、皆様には記念事業のためのご寄付も有難うございました。40周年記念事業実行委員の立場からも御礼申し上げます。

大学の近況としては、教育面では平成18年度から導入された「地域特別枠自己推薦(推薦B)」入学者が平成25年度から(今年の入試から)香川県枠の2名がなくなり(香川大の愛媛県枠もなくし)15名から17名が全て愛媛県枠になっており、またその奨学金貸与の学生も最高学年が5年生になり(初期は定員10名)臨床実習に励んでおります。現在は、一般入試65名、推薦A(学校推薦)25名、推薦B17名、学士2年次編入5名の計112名が1学年あたりの定員になっております。このように学生の人数も90人だった時代より増加しており、より一層の医学教育の充実を図る必要性を感じているところです。また、地域医療に従事する医師の確保を目的に県の委託により昨年4月に地域医療支援センターを開設しておりますが、地域医療学関係の各寄付講座と連携し、地域医療を担う医師養成の拠点としての役割を担うため地域病院見学バスツアーや地域住民アンケートなどに着手

平成25年9月28日(土)
医学部創立40周年記念事業



研究科長 安川 正貴 挨拶



学長 柳澤 康信 挨拶



記念講演会 樋野 興夫 先生(1期生)



記念講演会 村上 信五 先生(2期生)



記念コンサート ヴァイオリニスト 松本 蘭氏

卒業生からのメッセージ



日浅 陽一 (平成2年卒・12期生)

(愛媛大学大学院医学系研究科 病因・病態領域 消化器・内分泌・代謝内科学 教授)

この度、本年の4月より愛媛大学大学院 消化器・内分泌・代謝内科学 (旧 第三内科) の主任教授を拝命することになりました。太田康幸先生が岡山大学より赴任され昭和51年に愛媛大学第三内科を創設されて以来、37年の月日が流れ、第三内科の第三代教授としての職責をいただくことになりました。先代の第二代教授である恩地森一名誉教授より引き継ぎの際に、「第一代が築き、第二代がはぐくみ、そして第三代が花を咲かせる時期だ。」と激励の言葉をいただきました。まさしく、これから花を咲かせることで、医師として生み育ててくれた愛媛大学、そして同窓会の皆様にご恩をお返しできるようにがんばりたいと思います。

私は愛媛大学の12期生として、平成2年に入学しました。入学したときは卒業した先生方も1000人を越えず、西医体では愛媛医科大学と呼ばれて知名度の低い状況でしたが、いまや創立40周年を迎えて、愛媛県内の医療のみならず、全国各地において同級生、同窓生が活躍しており、隔世の感があります。そのなかで、愛媛大学出身の内科学者として第三内科を任せていただいた意味をかみしめながら、できることを一つ一つ進めていきたいと思っています。

大学には研究、教育、医療の3つの役割があると言われます。その中でも特に大学には医学生を教育できる教育の特権があります。大学の一職員としてこれから母校の後輩を指導できることに深い喜びを感じます。他大学に負けない立派な医師を育成するように努力することが、大学のレベル向上、ひいては県内の医療レベルの向上と研究レベルの向上に寄与しうることと認識しております。愛媛大学には現在、素晴らしい業績を持たれた、またアクティブに研究されている基礎教室が充実しています。医学部をこえて他学部との共同でプロテオサイエンスセンターも生まれました。学術機関でもある愛媛大学の発展のために、医学科学生の教育のみならず大学院生を積極的に受け入れて、大学内および県内医療機関の諸先生方、他大学あるいは研究所の方々にご支援いただきながら指導し、自らも努力していく所存です。

私が愛媛大学入学した当時、大学は田園の中にあり風光明媚な環境でした。昨今の開発で大学周囲の自然環境は大きく変わり、ずいぶん開けて明るくなりました。これからは自然環境だけでなく、大学を取り巻く社会環境も大きく変化して、地方大学医学部としての方向性を模索していく時代になりそうです。その中で、同窓会の諸先生方におかれましては、今後とも引き続きご指導ご鞭撻を賜りたく存じます。どうかよろしく御願い申し上げます。

新任教授からのメッセージ



山下 政克

(愛媛大学大学院医学系研究科 病因・病態領域 免疫学 教授)

昨年10月より愛媛大学大学院医学系研究科免疫学講座を担当させていただくことになりました、山下政克と申します。愛媛大学医学部の同窓の諸先生に、ご挨拶が遅れたこととお詫び申し上げます。そこで、略儀ながらこの場をお借りしまして、自己紹介とご挨拶をさせていただきます。

私は、筑波大学第二学群農林学類を卒業後、大阪大学医学系研究科医科学修士課程を修了しており、M.D.ではありません。しかし、大阪大学医学部での教育・研究指導により医学研究の素晴らしさを実感し、現在まで基礎医学研究を継続してきました。修士課程修了後は、藤沢薬品工業 (現アステラス製薬) に入社し、約7年間新薬開発の基礎研究に従事しました。同社在籍時に、2年間、東京理科大学生命科学研究所に国内留学したことが契機となり、免疫学研究を開始しました。学位取得後、藤沢薬品工業を辞し、助手として千葉大学医学部に籍を移しました。千葉大学では、助手から准教授までの約12年間、免疫発生学教室で免疫・アレルギー学の基礎研究をおこなうとともに、肺がんや頭頸部がんの免疫細胞療法の開発を目指したトランスレーショナルリサーチに参加しました。その後異動した、かずさDNA研究所ゲノム医学研究室では、次世代型シーケンサーとDNAアレイを活用して、T細胞機能・記憶の分子メカニズム、アレルギー発症の分子機構をエピジェネティクスの観点から解析しました。また、かずさDNA研究所、千葉大学、理化学研究所の産官学が共同で進める地域イノベーション支援プログラムにも参加し、千葉大学の臨床教室と共同で疾患特異的バイオマーカーの探索を行いました。このように、私は、継続して行ってきた基礎免疫学研究、トランスレーショナルリサーチへの参加経験、製薬企業での新薬開発など多くの経験を持っています。これらの経験を最大限に活用し、愛媛大学では、その理念である「患者から学び、患者に還元する教育・研究・医療」の実現に貢献すべく頑張っていきたいと考えています。

現在、免疫学講座は、感染防御講座と協力しながら、研究・教育を行っています。研究は、アレルギー炎症、免疫記憶、免疫老化を3本柱とし、これまでの伝統の上に新しい歴史の1ページを書き加えられるよう、努力をしていく所存です。当教室の詳しい研究内容と研究業績につきましては、ホームページ (<http://www.m.hime-u.ac.jp/school/immunology/>) に記載がありますので、ご一読頂ければ幸いです。今後、同窓会の先生には、お世話になる機会が多いと思いますが、何卒お力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。



浅野 水辺

(愛媛大学大学院医学系研究科 社会・健康領域 法医学 教授)

平成24年(2012)年10月1日付で、愛媛大学大学院医学系研究科法医学分野教授を拝命しました浅野水辺と申します。創立40周年を迎える本学医学部の一員に加え、戴きましたことに身の引き締まる思いでございます。

私は、平成6(1994)年に神戸大学医学部を卒業後、麻酔科での臨床研修を経て法医学教室に入局致しました。生まれも育ちも兵庫県、他大学に籍を置いたことがなく神戸大学しか知らない私にとって、愛媛大学への赴任は仕事のみならず、生活の面でも大きな変化でした。しかし、大学では勿論のこと地域においても多くの皆様に温かく迎えて戴き、愛媛が第二の故郷になることを確信しております。

愛媛大学法医学講座は昭和49(1974)年に開講され、初代四宮孝昭教授により基盤が整備され、その後大きく発展致しました。しかし、教授退官後、約15年にわたり後任者が不在でした。准教授以下のスタッフにより初代以来の良き伝統は継承されておりますが、司法解剖に代表される法医実務には十分な対応ができず、関係各位にご負担をかけて参りました。犯罪死の見逃し防止や諸外国に較べて著しく低い解剖率の向上を目的とし、昨年「死因究明関連法」なる新しい法律が成立しました。これを受け、法医解剖の要請は増加の一途です。今後は積極的に解剖を受託し、地域における死因究明の責任を果たして参る所存です。

また、私は現在、法医中毒学に興味を持っております。急性薬物中毒による死亡は特異的な剖検所見を欠くことが多く、それ故に血中薬物濃度が診断の手掛かりになります。近年薬物が関連した犯罪が増加し、法医鑑定における薬物分析の重要性は高まっています。前任校における薬物分析に関する研究を継続し、その結果を法医実務に還元したいと考えます。

現在の教職員は総勢3人と小所帯ですが、幸いなことに法医学に興味を持つ学生が解剖見学や「医科学研究」の履修に訪れ、教室は活気に溢れています。「臭い・汚い・キツイ」といった法医学のイメージを払拭し学問としての法医学の魅力を伝え、次世代の法医学を担う若い医師の育成に努めたいと考えております。

浅学非才の若輩ではございますが、愛媛大学と地域のために精進して参る所存でございます。同窓会の諸先生方におかれましては、ご指導・ご支援くださいますようお願い申し上げます。



今井 祐記

(先端研究・学術推進機構 プロテオサイエンスセンター 病態生理解析部門 教授)

平成25年4月より開設されました愛媛大学プロテオサイエンスセンターにおきまして、病態生理解析部門(兼大学院医学系研究科病態生理学講座)を担当させて頂くになりました今井祐記と申します。

私は、大阪生まれの大阪育ちで、平成5年に大阪府立三国丘高等学校を卒業の後、大阪市立大学医学部を平成11年に卒業し、同大学整形外科に入局致しました。入局時は、先々代の山野慶樹教授のご指導のもと、臨床研修を終え、同大学大学院(整形外科学)に入学し、2年間は臨床(関節外科、脊椎外科、救急など)に携

わったところで、先代の高岡邦夫教授が赴任されました。高岡教授は、新生骨形成を担うタンパク質であるBMP(Bone morphogenetic protein: 骨形成因子)を世界に先駆けて精製した研究者であり、大学院生として厳しく基礎研究をご指導頂きました。大学院を卒業後、小児整形外科を担当の後、およそ1年間、東京大学分子細胞生物学研究所に国内留学し、性ホルモン受容体による骨代謝調節の研究に従事致しました。その後、大阪市立大学医局に戻り、小児整形外科グループリーダーとして、様々な遺伝子変異により惹起される骨系統疾患の診療等に携わってきました。

卒後10年間の整形外科臨床経験で多くの事を学ばせて頂いた事を感謝すると同時に、多くの疑問が自分の中に生まれることに気づいてきました。「なぜ変形性膝関節症の患者には女性が多いのだろうか?」「なぜ先天性股関節脱臼は女児ばかりなのだろうか?」「なぜ関節リウマチ患者は妊娠すると症状が改善するのだろうか?」…、これらの疑問の一部でも明らかにする事ができれば、疾患の予防や治療に繋がるのではないだろうか?その目的を果たすためには基礎研究を行う必要があると考え、主に遺伝子改変マウスを用いた遺伝子の生体内機能解析を中心に基礎研究に従事致しております。

愛媛大学プロテオサイエンスセンターでは、無細胞タンパク質合成技術やプロテオミクス解析技術などの国内のみならず国際的にも特色ある研究が行われており、これらの技術と共同で、生体における新たな蛋白の機能、病態における作用の解明につなげて行きたいと考えております。

上記のようなアプローチで研究を展開させ、甚だ微力ではありますが、愛媛大学のサイエンスの発展に貢献できればと考えております。同窓会の先生方には、様々な場面でお世話になる事と思っておりますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

医学祭を終えて

第37回愛媛大学医学部医学祭実行委員長 楠目 浩祐



病院の先生方、学生、そして地域の方々のおかげだと思います。

私たちは第37回医学祭のテーマを"Passion for Try"にさせていただきました。このテーマには、「どのような状況、課題に対しても情熱を持って挑戦する」という思いが込められています。今年の講演会には、東北で避難生活をされつつ、避難所の人々のホームドクターをされていた今野明先生を外部講師としてお招きし、講演をして頂きました。また、愛媛大学精神科教授の上野修一教授には、メンタルヘルスに関する講演をして頂きました。今年も講演会を楽しみにして医学祭に来られた方々は多く、先生方には素晴らしいご講演をして頂きとても感謝しています。

今年も去年に引き続き、看護科一日体験、キャンパスツアー、救急車展示などの医学的な企画を催し、去年同様もしくはそれを上回る大盛況となりました。中でも、新たな試みとして行った餅まきは、多数の来場者の方々に参加して頂き、地域の方々にも楽しんで頂ける理想的な医学祭となったと感じています。

どの企画においても、私たち実行委員だけでは成し遂げることができませんでした。多くの方々のご協力、ご理解のおかげで、第37回医学祭を成功させることができたと思っております。

例年医学祭の季節は雨が多く、今年も日曜日に雨が降り、一部の企画が雨天中止となってしまった事は心残りではありますが、ほぼ全ての企画を無事終えて、片付けを含めて、事故等が起こらなかったことは、実行委員として非常に満足しております。この経験を後輩に引継ぎ、来年もそれ以降も今年以上の医学祭を作り上げてもらいたいと思います。

医学祭を開催するにあたってご協力して下さった皆様方、本当にありがとうございました。実行委員一同心より感謝申し上げます。

スタンフォード医療研修に参加して

■ 岡本 莉奈 (4年生)

(後右端)

今回スタンフォード医療研修に参加したのは留学したいという気持ちと、アメリカと日本の医療の違いってどんなんだろうという軽い気持ちからでした。しかし、スタンフォードで待っていたのは意欲の溢れた、モチベーションの高い学生ばかりで、私は彼らとの差を必死で埋めようとプログラムに積極的に参加することができました。このプログラムではスタンフォードやUCSF (University of California, San Francisco) の大学病院、子供のためのホスピス、Free Clinicへの訪問やコードブルーのヘリコプター見学など、日本では一生体験することができなかったような貴重な体験をしました。Free Clinic や子供のためのホスピスなどは日本人にとって馴染みのあまりないものだったので特に印象に残っています。



研修でもう一つ学んだことは、「いま」を有意義なものにするためには来自分がどうありたいかといった明確なビジョンを描いて勉強に臨むべきだということです。出会った学生たちは日米を問わず、皆「将来の目標を達成するためにいま自分がすべきことはなにか」を自覚して与えられたもの以上の成果を出していました。3年生になって、果たして自分はこのままでいいのだろうかかと悩んでいた私は今回の研修を通してより広い視野と今までとは違った姿勢を得ることができました。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせていただいた全ての方に感謝して報告を終わらせて頂きます。

スタンフォード医療研修に参加して

渡部 遥 (3年生)

(左下)

今回、夏休みを利用して、スタンフォード大学にてVIAという団体が主催するMedical Exchange & Discover Programに参加してきました。このプログラムは、スタンフォード大学や近郊の施設見学(病院やFree Clinic、小児ホスピスなど)やアメリカの医療に関係する様々な仕組み(医療保険や医療政策、臓器移植など)について学ぶものです。参加者は、日本からは愛媛大学のほか、東京や、台湾、中国からの計21名でした。これに加え、スタンフォード大学の学生数名がボランティアでコーディネーターとして加わり、17日間の間、寝食を共にしました。



アメリカは移民の国ですが、その中でも大学があるカリフォルニア州は特に移民の多いところです。そのため、現地の人は異なる文化や考えに対してとてもオープンで、私たちは研修中、国籍や学年に関係なく、大学での授業や勉強のことから、趣味の話、それぞれの国の文化の話など、自由に意見を交換することができました。また、中国・台湾から参加していた学生は医学や英語のレベルが非常に高く、自分との差に愕然としましたが、そんな刺激を受けるのも楽しかったです。

研修に参加して、もちろん様々な知識を得ることができましたが、自分にとっての何よりも貴重だった経験は、英語や医学に対するモチベーションの非常に高い仲間ができたことです。この仲間の存在で、今までよりさらにモチベーション高く、学習に取り組むことができそうです。また、研修中、私たちは全力で学び、また全力で遊び、とても楽しい17日間を過ごしました。この経験から、これからの自分の学生生活も、全力で学び、また全力で遊んで充実したものにしたいと思います。

最後に、またとない素晴らしいプログラムへ参加する機会を与えてくださった全ての方々に、深く感謝申し上げます。

村田 夕紀 (2年生)

(左側)

今回、私は1回生であるがVIAプログラムのMEDに参加させてもらった。最初は平均的に3、4回生が多いと聞いていたので不安もあったが終わってみてその不安は無用であったと感じている。積極的に授業や講演で発言して分からないところを質問すればどの講演者も丁寧に答えてくれたし医学的なことが分からなければ上回生の参加者に質問すればなんでも教えてくれた。アメリカの医療制度の光と影を垣間見ることができたこと、そして写真にあるような腹部手術のシュミレーターなどの恵まれたスタンフォード大学の教育環境に短い期間でも身を置けたこと、友人になった何人かの現役スタンフォード生と寮の廊下でソファやフロアに座って普段から議論して意見を述べるなどを通じていろいろと刺激されることが多かった実りの多いプログラムで、参加して心からよかったと感じている。この研修は私の想像以上に私の将来のビジョンに影響を与え、これからの長いスパンで見ても今回の経験は私にとってとても大きな意味をもってくるだろう。



最後になるがこの貴重な体験を与えてくださった多くの方々に深く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

小林 侑華子 (5年生)

(左から2人目)

医学英語を本場で学ぶことが出来る、とお聞きし、今回via(volunteer in Asia)主催、EHCプログラムに参加させて頂きました。

2週間という短い期間でしたが、スタンフォード大学病院の見学や、他大学の医学生と英語の講義を受け、ディスカッションを通し、アメリカと日本の医療現場の違いを体感しました。なかでも、私が最も刺激を受けたのは、free clinic で出会ったアメリカ人医学生とヒスパニック患者の医療面接のやり取りでした。free clinic とは、医療保険に加入していない移民者や外国人、貧しい人々が無料で医療を受けられる病院です。医療面接をし、身体所見をとった後、鑑別診断を行い、自ら電子カルテに記入する。その後、上級医からのfeedbackを受け、医学生としての学びに生かす。プライマリ・ケアの面白さを再発見するとともに、これから病院実習が始まる私自身に、医学生としての自覚を促すものでした。



また医学英語が必要とされていることも実感しました。論文を読むにしろ、学会発表をするにしろ、英語は避けて通れません。専門用語を知らなければ、日常会話は出来ても、学術的な議論が出来ません。他大学医学生の、医学英語に対する積極性に驚かされることもありました。

これからの学びにおいて、この度の経験を生かし、私自身目標を持ち、主体的に行動していきたいと思っています。

最後になりましたが、この研修を支援して下さいました多くの方々に感謝申し上げます。

スタンフォード医療研修に参加して

■ 楠目 浩祐 (4年生)

(右左)

今回のスタンフォード研修プログラムでは、意識の高い日本の学生や、スタンフォード、UCSFの学生と共に生活することで多くの事を学びました。彼らの医療に対する興味や知識、また医療従事者になることへのモチベーションはとても充実していて、良い刺激を受けることができました。普段日本の医学部で学んでいるだけでは知ることがない海外の医学教育の実態を見ることができたのはとても貴重な経験でした。このプログラムに参加する機会を与えて下さった、愛媛大学医学部の先生方、VIAの方々、両親に感謝するとともに、この経験をこれからの学生生活等に役立てていきたいと思えます。



■ 谷口 翠 (4年生)

(右から3番目)

3月15日から29日までの約2週間、アメリカのスタンフォード医療研修に参加しました。2週間というプログラムは、あっという間でしたがそれでも充実した毎日でした。

大学病院などを見学させていただき、アメリカと日本の医療施設、医学教育の違いや保険制度の違いにも触れることができました。ほかに素晴らしい経験をたくさんさせていただきました。

また、StanfordやUCSFの学生、また日本の他大学の学生と交流することができました。志の高い人々に触れ、自分も高いモチベーションをもって自分の授業、実習などにむきあっていたと思います。

私は英語が得意ではありません。ですが得意ではないからといって閉じこもってはいはこんな経験はできませんでした。私がこのプログラムに参加し、よい経験できたのはひとえにたくさんの方々への支援あつてのことです。心より感謝申し上げます。



■ 下山 佳織 (2年生)

(後右端)

この度2週間のスタンフォード留学プログラムに参加させて頂きました。海外の医療や研究室を肌で感じ、日本の医療を違った視点から見たい、自分とは違う環境の医学生と出会って、良い医師とは何か、学生時代に何をすべきかを知るヒントを得たいという思いから参加を希望しました。

向こうでは、余り授業では取り上げられない臓器移植や医学教育について勉強したり、shadowingをしたりすることで、医師に求められるものや、医学生のうちしておくべきことを学ぶことができました。また、現地の日本人医師や研究者の方と交流することで、将来設計のヒントを得ることができました。

私を得た最も大きなものはmotivationです。アメリカの学生の積極性や能力の高さだけでなく、同じ参加者の英語運用能力や、motivationの高さにも大いに刺激を受けました。

正直英語運用能力や医療系の知識があればもっと多くを吸収できたのではという思いはあります。しかし、その分大学生活の早い段階で、高いmotivationを持つ人から刺激を受けることができたことが、私の最大の収穫です。

最後に、この研修を支援してくださった方々と、文句一つ言わず送り出してくれた両親にこの場を借りて感謝します。



■ 田中 いつみ (2年生)

(右側)

このプログラムに一年生で参加したという経験は、これから医療に向き合っていく者としてとても良い起爆剤になったと思います。周りの参加者の多くが四年生のなか、自分がまだ何も知らないことをとても強く感じましたし、知識はなくても、「話したい」という気持ちさえあれば、自分も一人の人間として見てもらえると感じることができました。物事を学ぶときに一番重要なことは好奇心だ、とこのプログラム中に分かりました。アメリカという土地では質問することが求められていて、かつそれに対して快く応答してくれます。好奇心が強く質問することにためらいのない私にとってはとても過ごしやすいく所でした。知りたいといえば快くいろんなことを教えてもらえて、たくさんのことを吸収したとても濃密な二週間でした。年長者、かつ自分と異なる生活をしている人たちとの話はとても刺激的で、自分自身を見つめ直す良い機会になったと思います。できることならさらに臨床的な知識を身につけてから同じようなプログラムにまた参加したいです。



14期生同期会報告

卒業20年の再会

『お久しぶりです。お元気ですか？早いもので今年、医学部を卒業して20年になります。』愛媛大学脳神経外科教室で活躍する渡邊くんのメールをきっかけに、私たち14期生の同窓会を開催いたしましたのでご報告いたします。



8月4日土曜日、松山全日空ホテル。男性51名、女性14名、計65名が参加しました。約半数が愛媛県下から、それ以外は、東は関東から西は九州まで全国各地から集合しました。

会場ではポリクリ班を基準に8つのテーブルにわかれて座りました。会の間は、全員にマイクを回して、一言ずつ近況報告を行いました。20年ぶりの友人の言葉にみな注目し、まるで65人が1つのテーブルに座っているかのような、終始そんな和やかな雰囲気では進みました。

現在の仕事の状況は、約4割が市中病院勤務、約3割が開業医として、また愛媛大学を含め大学病院勤務が約1割、その他、公衆衛生や福祉の分野で活躍する人など。女性は非常勤の形が多いものの、みな何らかの仕事を続けていました。(しっかりと独立し、しなやかに自分の道を進む人もありました。)その他、家庭の話、趣味の話、健康状態や学生頃の話など、様々な話題が飛び交いましたが、すでにお子さんが大学生で、中には私たちの後輩である、愛媛大学医学部生の親となった方もありました。(年月をしみじみ感じた瞬間でした。)

話の中で、今回この会が開かれて本当に良かったと、みな喜んでいました。かつて共に同じ時間・同じ場所で過ごしたことは、とても心強い、温かいつながりになることを、今回改めて気付かされました。

それぞれに色々な経験を経た後の20年後の再会を、まるで学生の時そのままのような気持ちで過ごすことができました。話は深夜まで尽きることなく、またの日の再会を誓って、懐かしい一日を締めくくりました。

(文責 大城久子)

4期生同期会報告



平成24年8月25日午後6時から、松山全日空ホテルで、2回目になる4期生の同期会を開催しました。

今回は卒後30周年の節目に合わせ、3人の教授就任(石井潤一・藤田保健衛生大学臨床検査、宇高恵子・高知大学分子免疫、佐山浩二・愛媛大学皮膚科)をお祝いをしました。県外からもたくさんの方が駆けつけてくれ、総勢44名の参加となり大いに盛り上がりました。

各人の近況報告では、週刊誌にスクープされた有名人と結婚、入院中にもかかわらず抜け出して参加、官僚と戦う県立病院長、今もて期でもてて、大手術を乗り越えて、本を出版、他科の講演会巡りが趣味、と様々話が聞けました。最初、風貌の変化に戸惑いましたが、話しているうちに、学生時代と全く変わらないなあと、実感、懐かしい気持ちになりました。

二次会は、全日空ホテルのプロバンスで、36名参加。その後、夜の街に消えていった人々もあったようです。

翌日にゴルフも行いましたが、こちらは、ホームページの掲示板でのお知らせだったせいか、3名の参加(-_-;)今回、同窓会ネットという会社を通じて、開催しましたので、幹事の事は楽でした。そちらのホームページの掲示板は引き続き使えますので、4期生の方はぜひご利用くださいませ。

(文責 飯尾智恵)

22期生同期会報告

さる平成25年1月13日、平成22年以来卒業後2回目となる同期会を開催しました。

愛媛県内の同期生を中心に集まりましたが、首都圏・関西・九州など県外からの参加者もあり、前回より少し多い25名が久しぶりの旧交を温めることができました。

一次会では卒後10年以上経ったことも忘れて皆学生時代と変わりなく騒いでおりましたが、おのおの現状報告では開業や子供のことなど学生時代とは違った内容の話も多く、時の流れも楽しむひと時でした。二次会でも21人が引き続き楽しく語り、最後は近い将来また同期会での再会を約して解散となりました。



22期のメーリングリストも幹事の大島鉄朗君により定期的な連絡があり、だんだん参加者も増えております。まだ連絡が不通の同期生もおりますので、もしこれを読まれた方はぜひご一報ください。

同期会メーリングリスト(epoc)連絡先：大島鉄朗 (ohshima@m.ehime-u.ac.jp)

(文責 永井勲久)

15期生同期会報告

平成25年8月3日、松山市全日空ホテルにて約20年ぶりの再会を果たしました。卒後初めての同窓会ということもあり、名簿作りが大変でした。それぞれ居所を突き止めて、怪しい電話と思われつつもひるまず、凹まず・・・(本当は、なにやってるんだろう・・・と自問自答の日々もありました。)しかしながら、その甲斐あって66名も集まってくれました。きっとお互い見た目は中年のおじさん、おばさん、なんだろうけど、中身はすっかりその時代に戻ったかのようで、声も雰囲気も若かった時を重ねて、楽しい夢のひとつを過ごしました。社会の中でも家庭の中でも一番我慢の強いられる悩み多い中年ですが、愚痴なんてほとんど聞かなかったような気がします。みんなとても明るい顔していて・・・私の錯覚だったのかもしれませんが・・・でも今回みんなが会えて本当によかった！



これからはお互いがお互いの患者になり得る年齢へ突入ですね。次は何年後に会えるか分かりませんが、みんな元気で、健康には気を付けて、お互いを治療しつつ、再会しましょう！

(文責 五藤智子)

1期生同期会報告

昭和48年、突如重信の平原に白い巨塔が姿を現して、早いもので今年40年を迎えた。50周年まで待つと、一期生等設立初期の同窓生は全てOBとなってしまうことから、40周年記念会が浮上したとの裏話を聞き、急遽今回の同期会開催となった。4年前の卒後30周年記念会も賑わったが、今回も県外参加者約10名を含め29名の参加のもと大いに盛り上がった。還暦を迎えた者が半数を超え、足腰の障害や感覚器の衰えを実感している者、孫の写真を携帯電話の待ち受けにしている者も少なくなく、集団還暦祝いも兼ねた会となった。全員からスピーチがあり、まだまだ血気盛んな医療者としてのアピールがある一方で、子供達の結婚相手の紹介依頼や、老化防止への努力の日々、残された人生の過ごし方など、笑いの中で、あの頃と結局は余り変わっていない仲間との再会を心から楽しむことができた。欠席者からも近況報告が届き、一期生が全国で元気に活躍している状況を確認することもできた。今のところ同期生の訃報は無いものの、今後は毎年集まって互いの元気を確かめ合おうと誓って、7時半から4時間に及ぶ同期会はお開きとなった。



(文責 櫃本真串)

第4回愛媛大学医学部同窓会近畿支部総会 報告



第4回愛媛大学医学部同窓会近畿支部総会をH25年5月18日ホテルグランビア大阪にて開催しました。

近畿に在住されている愛媛大学医学部卒業生は第22期生までで約500名おられ今回は50名の参加がありました。勤務移動もあり出欠確認の把握が困難でしたが各期の代表者からも声をかけてもらい昨年より多く参加してもらえました。近隣の病院に勤めておられる先生

とも知り合うことができ医療連携にも役立っています。

今回は今年4月に第3内科学教授に就任された日浅陽一先生に「愛媛大学第3内科(消化器・内分泌・代謝内科学)を担当するにあたって」の講演をしていただきました。新潟からの出張の帰りというお忙しい中 快く講演を引き受けていただき先生が研究してこられた肝炎から肝癌発症、治療、今後の課題、さらに第3内科の状況と今後母校の発展にどのように取り組んでいくか、教育に対する姿勢、リサーチ・マインドの育成など興味ある内容でした。引き続き総会、懇親会と楽しい会合を持つことができ恒例になりつつあるグリークラブOBの美声を聞かせていただき会を盛り上げてもらえました。

年に一回の同窓会開催にしていますが若い先生にも多く参加してもらおうよう次回からは若い世代も含めた複数の幹事で担当してもらおうことになり、より多くの参加を期待しています。

(文責 田口潤智)

(写真は集合写真が撮れず総会の一場面です)

第6回愛媛大学医学部同窓会中国支部総会 報告

昭和48年に入学して、40年が経とうとしています。その当時は新設医学部ということで周りの人は本当に優しく、寛容でした。学生時代はラグビーばかり、西尾君と自治会をたちあげたり、また重信では医学祭を始めたりしておりました。また第3内科の故太田教授に“今は3流以下の大学だ。君たちがしっかり勉強してがんばらなければいけない。”と叱咤激励されたことを憶えております。卒業してすぐに地元の呉共済病院で2年間初期研修、その後虎ノ門病院循環器内科で心臓カテーテル、三井記念病院で心臓エコー、都立養育病院で心臓核医学の研修ののち呉共済病院にもどり循環器内科で20年勤務し、平成12年に開業しました。



開業して数年が経った頃、近畿地区、関東甲信越地区、九州地区の同窓会設立を聞き、中国地区も負けてはならじと1期生有志と相談し平成17年1月29日に第1回の同窓会中国支部総会を開催しました。

第2回(広島)平成18年1月28日(土) 記念講演は広島大学 河野修興教授“K L 6の発見と臨床応用”

第3回(岡山)平成19年1月27日(土) 記念講演は愛媛大学医学部麻酔・蘇生学名誉教授 倉敷成人病センター総院長 新井達潤先生“新しい心肺蘇生と問題点”

第4回(広島)平成21年5月23日(土) 記念講演は山口大学第1外科 濱野公一教授“外科教授の日々”

第5回(岡山)平成23年5月21日(土) 記念講演は川崎医科大学消化器外科 山下和城准教授“大腸癌治療の現状”

第6回(広島)平成25年5月18日(土) 記念講演は愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター長・教授 高田清式先生“愛媛大学医学部の現状報告”でした。

今年は40周年ということで多くの同窓生の参加があり、今の医学生の実況、国試対策(今年はひどく悪かったそうです)、大学の近代化、また女性医師(マドンナ)の待遇改善等、面白くもあり40年の時の流れを痛感しました。

周りには、多くの同窓生がいます。是非同窓会で酒を酌み交わし、青春を取り戻しましょう。

(文責 下原康彰)

第10回愛媛大学医学部同窓会九州支部総会 報告

愛媛大学医学部40周年おめでとうございます。

私ども愛媛大学医学部同窓会九州支部も、第十回同窓会を七月二十七日博多都ホテルで行いました。

今回は、第十回記念ということで1期生の吉田謙一先生(東京大学法医学教授)をお招きし、「人の死を活かす法医学」の特別講演をしていただきました。大変興味



深い内容で、わかりやすくお話ししていただきました。その後、小宴会では自己紹介も交え22名の出席者全員楽しい時を過ごしました。

教官でありました濱田先生(宮崎医療センター)はじめ、九州各地の1期生から31期生の卒業生の皆様、遠路はるばる御出席ありがとうございました。また吉田謙一教授におかれましては、東京よりお忙し中お越しいただきありがとうございました。

愛媛大学医学部同窓会九州支部では、毎年七月下旬の土曜日に同窓会を行っております。九州内の勤務医の先生、又、開業医の先生の多数のご参加をお待ちしております。また名簿作成も行っておりますのでご協力のほどお願いいたします。

九州内での勤務や開業などで九州の地を踏まれた方は、速やかに事務局までご連絡をいただければ幸いです。

<事務局> すみい婦人科クリニック 澄井 敬成(8期生) sumiifc@k9.dion.ne.jp

九州支部長 すみ 角 典洋(2期生)



《会員の個人情報に関する取り扱い》

愛媛大学医学部同窓会は、会員の個人情報の保護と適正な取扱いに取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 個人情報の使用目的

同窓会が取得した個人情報は、以下の目的に使用されます。

- ・ 同窓会名簿の作成
- ・ 定期的刊行物(会報、名簿)の送付
- ・ 同窓会会費徴収のための業務
- ・ 事務連絡及び各種文書の送付
- ・ 支部会の行事開催に関する事務連絡及び各種文書の送付

2. 個人情報の提供

会員から情報の照会依頼があった場合、折り返し対応させていただきます。また、第三者からの電話照会等での返答は致しかねますので、ご了承ください。

3. 個人情報の管理

「会員名簿」は、施錠保管しており、「データベース」は、インターネットに接続していない専用PCで独立した作業を行っております。

《次号会報原稿募集》

★同期会報告

幹事の方は、氏名、卒業年、開催予定日を事前にご一報下さい。

- 条件
1. 20名以上の参加
 2. 報告文、集合写真を提出(会報原稿)
 3. 会費未納者への納入勧誘
 4. 3年に1回

★学生海外研修留学報告・医学祭報告(学生会員)

学年、氏名を事前にご一報下さい。

- 条件
1. 報告文、写真を提出(会報原稿)

《会費納入のお願い》

同窓会活動は、会員の皆様の会費で支えられております。会費納入をお忘れの方は、お早めに同封の用紙にてお振り込み下さい。

郵便振替NO. 01620-0-6644

入会金 1万円 終身会費4万円(合計5万円)

《会員名簿の不正使用禁止》

会員名簿は、会則により会費納入者のみ、一会員一冊の配布となります。

第三者に渡り不正に使用されますと、会員に多大な迷惑がかかります。他人に譲渡しないよう、また破棄する場合も特段のご配慮をお願い致します。事務局としても最大の注意を払っておりますが、皆様のご協力をあわせてお願い致します。なお、会員名簿の再送付は致しかねますのでご了承下さい。

注)卒業生と偽り、名簿の請求や他の会員の住所照会の問い合わせ電話があります。原則として電話での問い合わせには、即答致しかねますので卒ご了承下さい。また、不審な業者から会員の方へ直接問い合わせがある場合も十分ご注意くださいようお願い致します。

《お願い》

会員の皆様のご寄稿、ご意見及びご感想などは是非お寄せ下さい。また、会報で取り上げてみたいテーマ、企画等アイデアがございましたらご一報下さい。お待ちしております。

お知らせ

第30回

愛媛大学医学部同窓会通常総会

次回通常総会の開催予定をお知らせします。万障お繰り合わせの上、ふるってご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

日時：平成26年5月16日(金)18時～

場所：臨床第2講義室

議題：事業報告及び会計報告、予算の承認、その他

連絡先

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

愛媛大学医学部同窓会事務局

(器官・形態領域 解剖学・発生学講座内)

(旧解剖学第一講座)

TEL：089-960-5231 (受付10時～17時)

FAX：089-960-5233

E-mail：eusmdoso@m.ehime-u.ac.jp